

IBM Planning Analytics

本「サービス記述書」は IBM がお客様に提供する「クラウド・サービス」について規定するものです。お客様とは、会社、その許可ユーザーおよび「クラウド・サービス」の受領者をいいます。適用される「見積書」および「証書 (PoE)」は、別個の「取引文書」として提供されます。

1. クラウド・サービス

IBM Planning Analytics は、コラボレーティブでエンタープライズ・スケーラブルな予算編成、計画、分析、収益性、モデリング、スコアカードおよびレポート作成を提供するソリューションです。これらのアプリケーションは、64 ビットのインメモリーのオンライン分析処理 (以下「OLAP」といいます。) サーバーによってサポートされています。これにより、リアルタイム分析による複雑な多次元データのオンデマンド分析が可能になります。

本オファリングには以下のものが含まれます。

- 予算編成、計画、分析、収益性、モデリング、レポート作成、評価指標、およびスコアカードの各ソリューションを、管理者がモデル化し、配置できるようにする管理クライアント。
- エンド・ユーザーが計画の作成、確認および承認、レポート、重要評価指標および測定基準のアクセス、ならびにアドホック分析を実行するための、Web インターフェース。
- エンド・ユーザーが Microsoft Excel から IBM Cognos TM1 データへアクセスし、そのデータを分析、探索及びレポート作成を実行するための Excel プラグイン。
- Apple App Store から入手可能な IBM Cognos TM1 Mobile Contributor アプリケーションとの相互運用性。これにより、エンド・ユーザーが Apple iPad で計画の作成、レビューおよび承認を行えるようになります。
- エンド・ユーザーがデータ入力、アクセス・レポート、重要業績評価指標および測定基準を実行し、アドホック分析を実行できるようにする分散クライアント。

本「クラウド・サービス」オファリングには、「イネープリング・ソフトウェア」として IBM Cognos Analysis for Excel、IBM Cognos Integration Server、および IBM Cognos Command Center が含まれています。また、その他の「イネープリング・ソフトウェア」を含むことができます。

この「クラウド・サービス」オファリングには、Web ブラウザーを介した、ダッシュボードや対話式レポート、カスタム分析、アドホック・クエリーの開発、レポートの新規作成、定期レポートの表示、およびアクティブ・レポートの取り込みを実行できる、IBM Cognos Business Intelligence の特定機能へのアクセスが含まれています。この IBM Cognos Business Intelligence の機能は OLAP を対話的に活用し、お客様が、リスト、クロス・タブ、チャート、および財務諸表スタイルのレポートといった幅広いレポート・タイプを作成してフォーマットすることができるようにします。IBM Cognos Business Intelligence の各種機能は、Apple iPhone、Android およびタブレットを含む幅広いモバイル・デバイスを使ったレポートの取り込みにまで及びます。この「クラウド・サービス」は、Cognos Business Intelligence の各種機能により、ユーザーが生成したコンテンツに対して最大 250 GB のストレージを可能にします。お客様は、その他のデータ・ソースと共に IBM Cognos Business Intelligence の各種機能を使用することは認められていません。

この「クラウド・サービス」は、クラウドでの統一されたアナリティクス・エクスペリエンスを提供し、ユーザーが、IBM Watson Analytics の機能により、それぞれのビジネスに影響を及ぼす要因に焦点を当てることができます。データ・アクセスおよび予測分析の手順を自動化することにより、「クラウド・サービス」は隠れたパターンと関係を特定および説明し、その状況に至った理由について理解を深めます。

「クラウド・サービス」オファリングには、以下の機能が含まれます。

- ユーザー・エクスペリエンスへの関与 – ユーザーがデータを理解したり、データと対話したりできる形式でのデータや洞察の提示。

- データ・ディスカバリー – 視覚的にデータを探り、データと対話してパターンを発見し、洞察を導き出します。
- ガイド付き分析ディスカバリー – 統計上の相関とキー・ドライバー・アナリシスを自動的に実行する組み込みの予測分析。
- 自然言語ダイアログ – 一般的ビジネス用語を使用したキーワード方式の英語インターフェースによるデータとの対話。
- データ・アクセス – お客様の分析用のデータに自動的にアクセスした後、そのデータの準備態勢を独自にスコア付けします。その際、結果を損なう可能性のあるデータの問題に焦点を当てます。
- 10,000,000 行以下および 500 列以下の .xls、xlsx または csv のファイルをロードします。
- 100 GB のストレージ総容量 (ただし、データ・ストレージには、クラウド環境へロード済みのソース・ファイルおよびアプリケーション内で作成済みのコンテンツが含まれます。)
- PPT ファイル形式でエクスポートします。
- ストーリーテリング:
ストーリーテリングは Watson Analytics で提供される機能のセットであり、ユーザーはこれらの機能を使用することにより、Watson Analytics で作成された各種分析を 1 つの物語に仕上げることができます。1 つのストーリーの中で、ユーザーは既存のコンテンツを使用するか、または新規コンテンツを直接構築して、テキスト、イメージ、Web ページ、メディア、アニメーションと連携させて内容の濃い対話式プレゼンテーションを作成することができます。この機能は現在、「ベータ機能」として提供されています。
- インフォグラフィック
- DropBox、Box、および Microsoft OneDrive への接続
- Cognos 10 Reports への接続

本オフラインには、「実稼働インスタンス」1つ、「非実稼働インスタンス」1つ、TM1 のデータベース層用の最大 64GB のメモリー (RAM) および 200GB の共有フォルダー・スペースが含まれています。ただし、本書に別途記載のある場合は除きます。

1.1 ユーザーの役割

1.1.1 IBM Planning Analytics Enterprise Modeler

IBM Planning Analytics Enterprise Modeler は、TM1 データベース・オブジェクトの作成、変更、および削除、またはそのいずれかを行えるほか、セキュリティの管理 (ユーザー/グループ/特権)、プロセスの実行と日課のスケジュール、サーバー・パフォーマンス情報 (評価指標キューブやサーバー・ログ) へのアクセス、ワークフローの作成と管理、「IBM SaaS」が展開されている the Cloud TM1 サーバーからのデータの読み込み、および同サーバーへのデータの書き込みが可能です。

IBM Planning Analytics Enterprise Modeler は、「リモート・デスクトップ・プロトコル」により提供される機能にアクセスできます。

1.1.2 IBM Planning Analytics Enterprise User

- a. IBM Planning Analytics Enterprise User は、「クラウド・サービス」が展開されている IBM Cognos TM1 サーバーからのデータの読み込み、および同サーバーへのデータの書き込みが認められています。
- b. IBM Planning Analytics Enterprise User では、「クラウド・サービス」の以下のコンポーネントまたは機能を使用することはできません。
 - IBM Cognos Performance Modeler
 - IBM Cognos TM1 Architect
 - IBM Cognos TM1 Perspectives
 - IBM Cognos TM1 Turbo Integrator (プロセス作成用)
 - IBM Cognos TM1 Operations Console

- 管理機能に関する IBM Cognos TM1 Applications
- 管理機能に関する IBM Cognos TM1 Applications Workflow (ワークフローのレビューおよび承認を除く)
- リモート・デスクトップ・プロトコルにより提供される機能

1.2 IBM Planning Analytics Jump Start

IBM Planning Analytics Jump Start のセットアップ・サービスには、最大 80 時間の指導および支援が含まれます。これには、IBM Planning Analytics の初期ユース・ケースの特定における支援、IBM Planning Analytics の実装のプロジェクト計画および開始に関する指導、IBM Planning Analytics のレポート作成で実績のあるプラクティスに関する指導、ならびに IBM Planning Analytics の保守・管理に関する指導が含まれます。「サービス」は「エンゲージメント」ごとに購入されるものとし、全時間数を使用したか否かにかかわらず、90 日で満了となります。

1.3 オプションのアドオン

以下の「アドオン」は、IBM Planning Analytics Enterprise の各種オファリングの使用許諾をお持ちのお客様にのみ提供されます。

1.3.1 IBM Planning Analytics Single Tenant

本オファリングは、IBM Planning Analytics オファリングの容量を、TM1 のデータベース層用に最大 512GB のメモリー (RAM)、最大 500GB の共有フォルダー・ディスク・スペースまで増やすことができ、このデータベース層は、管理対象ハイパーバイザーまたは専用の物理サーバーのいずれかを備えたシングル・テナント環境でホストされます。

1.3.2 IBM Planning Analytics Additional Production Instance

本オファリングにより、IBM Planning Analytics の「実稼働」インスタンスをさらに追加することができます。

1.3.3 IBM Planning Analytics Additional Non-Production Instance

本オファリングにより、IBM Planning Analytics の「非実稼働」インスタンスをさらに追加することができます。本オファリングは、「クライアント」の非実稼働活動の一環としてのみ使用することができます。非実稼働活動には、テスト、性能調整、障害診断、ベンチマーキング、ステージング、品質保証活動、および、公開されたアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用して行われるオファリングに対する社内使用の追加もしくは拡張の開発、またはそのいずれかが含まれますが、これらに限られません。

1.3.4 IBM Planning Analytics Additional Planning Storage

本オファリングにより、お客様は、「クラウド・サービス」の実稼働または非実稼働のいずれかのインスタンスに、追加の 250 GB の共有フォルダー・ディスク・スペースを指定できます。

1.3.5 IBM Planning Analytics Additional Reporting Storage

本オファリングにより、お客様は、Cognos Business Intelligence の各種機能によりユーザーが作成したコンテンツに対して、「クラウド・サービス」の実稼働または非実稼働のいずれかのインスタンスに、追加の 250 GB のストレージを指定できます。

1.4 個人情報の処理

「クラウド・サービス」により、お客様は、適用可能なプライバシー法の下で個人情報または個人に関する機微情報と見なされる可能性のある情報を含んだコンテンツを入力して管理することができます。

- 連絡先情報 (例: 住所、電話番号や携帯電話番号、電子メール)
- 個人に関するセンシティブ情報 (例: 行政機関の識別番号、生年月日、国籍、パスポート番号等)
- 雇用情報 (例: 学歴、職歴、勤務地、報酬および福利厚生、業績等)

本「クラウド・サービス」は、規制コンテンツ (個人情報またはセンシティブ情報など) の特定のセキュリティ要件に即して設計されていません。お客様は、お客様が「クラウド・サービス」に関連して使用するコンテンツのタイプについて、本「クラウド・サービス」がお客様のニーズを満たすものかどうか判断する責任を負います。

2. セキュリティーの内容

IBM のデータ・セキュリティー・ポリシーは、[ibm.com \(https://www.ibm.com/cloud/resourcecenter/content/80\)](https://www.ibm.com/cloud/resourcecenter/content/80) で公開されており、下記の場合を除いて、本「クラウド・サービス」に適用されます。IBM のデータ・セキュリティー・ポリシーに対するいかなる変更も「クラウド・サービス」のセキュリティーを劣化させることはありません。

本「クラウド・サービス」は、「米国 - EU 間のセーフハーバー」の認証を受けています。

3. サービス・レベル・アグリーメント

IBM は、「PoE」に記載するとおり、「クラウド・サービス」に関して、以下の可用性のサービス・レベル・アグリーメント (以下「SLA」といいます。) を提供します。「SLA」は保証ではありません。

「SLA」はお客様にのみ提供され、実稼働環境における使用に対してのみ適用されます。

3.1 可用性クレジット

お客様は、「クラウド・サービス」の可用性に影響を及ぼした事象について最初に知り得たときから 24 時間以内に、IBM テクニカル・サポート・ヘルプデスクに対して重要度 1 のサポート・チケットを記録しなければなりません。お客様は、あらゆる問題診断および解決に関して IBM に合理的な支援を行わなければなりません。

「SLA」の未達成に対するサポート・チケットの請求は、契約月の末日から 3 営業日以内に提出しなければなりません。有効な「SLA」の請求に対する補償は、「クラウド・サービス」の実稼働システム処理が利用できない時間 (以下「ダウンタイム」といいます。) に基づいた「クラウド・サービス」の将来の請求に対するクレジットになります。「ダウンタイム」は、お客様が当該事象を報告した時点から「クラウド・サービス」が復元される時点までの間で計測され、次のものに関連する時間は含まれません。保守のための計画停止または発表された停止、IBM の支配の及ばない原因、お客様または第三者のコンテンツまたはテクノロジーの問題、設計もしくは指示、サポート対象外のシステム構成およびプラットフォームまたはその他お客様による誤り、またはお客様に起因するセキュリティー問題もしくはお客様によるセキュリティー・テスト。IBM は、下表のとおり、各契約月における「クラウド・サービス」の累積的な可用性に基づいて適用可能なものの内で最高の補償を適用します。各契約月の補償の合計額は、「クラウド・サービス」に対する年額料金の 1/12 の 10% を超えないものとします。

3.2 サービス・レベル

「契約月」における「クラウド・サービス」の可用性

「契約月」における可用性	補償 (「請求」の対象である「契約月」における 「月額サブスクリプション料金」* の割合)
99.0% – 99.75%	2%
95.0% – 98.99%	5%
95.0% 未満	10%

* 「クラウド・サービス」が IBM ビジネス・パートナーから取得されたものである場合、月額サブスクリプション料金は、「請求」の対象である「契約月」に対して有効な「クラウド・サービス」のその時点での最新の表示価格に基づいて計算され、それを 50% 割引した額となります。IBM は、直接お客様に払い戻します。

「可用性」は、以下のとおり算出されます。契約月における分単位の総時間数から、契約月における「ダウンタイム」の分単位の総時間数を差し引き、それを契約月における分単位の総時間数で除することにより算出され、結果はパーセントで表します。

例:「契約月」における「ダウンタイム」が 476 分である場合

30 日の「契約月」における合計 43,200 分 - 「ダウンタイム」476 分 = 42,724 分 <hr style="width: 50%; margin: 0 auto;"/> 合計 43,200 分	= 「契約月」における 98.9% の可用性につき 5% の 「可用性クレジット」
--	--

4. テクニカル・サポート

サブスクリプション期間中に「クラウド・サービス」に対して提供されるテクニカル・サポートは、<http://www.ibm.com/software/support/handbook.html> に掲載されている「IBM SaaS サポート・ハンドブック」または IBM が提供する後継の URL に定めます。「テクニカル・サポート」は「クラウド・サービス」に含まれ、個別のオフリングとして提供されるものではありません。

5. エンタイトルメントおよび課金情報

5.1 課金単位

「クラウド・サービス」は、「取引文書」に記載された課金単位に基づいて提供されます。

- a. 「許可ユーザー」は、「クラウド・サービス」を取得する際の課金単位です。お客様は、直接または間接のいかなる手段であっても (例えば、多重化プログラム、デバイスまたはアプリケーション・サーバーを経由して)、何らかの方法により「クラウド・サービス」へのアクセスを与えられた特定の「許可ユーザー」ごとに、個別に専用のエンタイトルメントを取得しなければならないものとします。お客様は、お客様の「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中に「クラウド・サービス」へのアクセス権限が付与される「許可ユーザー」の数をカバーするのに十分なエンタイトルメントを取得しなければならないものとします。
- b. 「インスタンス」は、「クラウド・サービス」を取得する際の課金単位です。「インスタンス」とは、「クラウド・サービス」の特定の構成へのアクセスを意味します。「取引文書」に規定されている課金期間中にアクセスおよび利用が可能な「クラウド・サービス」の「インスタンス」ごとに十分なエンタイトルメントを取得しなければならないものとします。
- c. 「エンゲージメント」は、サービスを取得する際の課金単位です。「エンゲージメント」は、研修イベント、業務分析、成果物に基づくサービス・イベントを含みますがこれらに限られない、プロフェッショナル・サービス、研修サービスまたはその両方のサービスで構成されます。それぞれの「エンゲージメント」をカバーするのに十分なエンタイトルメントを取得しなければならないものとします。
- d. 「ギガバイト」は、「クラウド・サービス」を取得する際の課金単位です。「ギガバイト」とは、2 の 30 乗バイトのデータとして定義されます (1,073,741,824 バイト)。お客様は、「証書 (PoE)」または「取引文書」に定める課金期間中に「クラウド・サービス」が処理する「ギガバイト」の総数をカバーするのに十分なエンタイトルメントを取得しなければならないものとします。

5.2 1 か月に満たない期間の料金

「取引文書」に記載された 1 か月に満たない期間の料金は、按分にて算定される場合があります。

5.3 超過料金

課金期間中の「クラウド・サービス」の実際の利用が、「PoE」に記載されたエンタイトルメントの範囲を超える場合には、お客様は、「取引文書」の記載に従い、その超過分について請求されます。

6. 期間および更新オプション

「クラウド・サービス」の期間は、「PoE」に記述されるとおり、「クラウド・サービス」へのお客様のアクセスについて、IBM がお客様に通知した日に開始します。「PoE」には、「クラウド・サービス」が自動的に更新されるのか、継続使用ベースで続行されるのか、期間満了時に終了するのかなどが記載されます。

自動更新の場合には、お客様が期間満了日の 90 日前までに書面により更新しないことを通知する場合を除き、「クラウド・サービス」は、「PoE」に定める期間につき自動更新されます。

継続使用の場合は、「クラウド・サービス」は、お客様が 90 日前までに書面により終了を通知するまで、月単位で継続利用することができます。「クラウド・サービス」は、かかる 90 日の期間後の暦月末日まで引き続き利用できます。

7. イネープリング・ソフトウェア

本「クラウド・サービス」には、「クラウド・サービス」期間にわたって、「クラウド・サービス」のお客様による使用に関連してのみ使用することのできるイネープリング・ソフトウェアが含まれます。

8. 共通事項

8.1 最低限必要なエンタイトルメント要件

お客様は、最低 1 つの IBM Planning Analytics Enterprise Modeler と最低 10 の IBM Planning Analytics Enterprise User の使用許諾を保有する必要があります。

8.2 非実稼働 (Non-Production) に関する制限

「クラウド・サービス」が「非実稼働用」に指定されている場合、「クラウド・サービス」は、お客様の非実稼働活動の一環 (テスト、性能調整、故障診断、ベンチマーキング、ステージング、品質保証活動または公開されたアプリケーション・プログラミング・インターフェースを使用する社内使用の「クラウド・サービス」に対する追加または拡張の開発を含みますが、これらに限られません。) としてのみ、使用することができます。

8.3 コンテンツのバックアップ

「クラウド・サービス」には、共有フォルダー・スペースのみの「コンテンツ」のバックアップが含まれます。主要な場所における「不可抗力」事象に備えて、データベースのバックアップは毎日ローカルで行われ、別のデータ・センターにある他のデータベースに複製します。IBM は最新 7 日分の日次バックアップ、さらに 4 週分の週次バックアップを保持します。バックアップは、ディスク・ベースのバックアップ・システムに保存する際、および伝送中は暗号化されます。「日」または「日次」は暦日を意味します。

8.4 災害復旧

壊滅的な事象または IBM の制御不能な原因により「クラウド・サービス」が利用できなくなった場合、IBM は、14 暦日以内にお客様が「クラウド・サービス」へのアクセスを再開できるように IBM のデータ・センター・ネットワークのハードウェア、ソフトウェアおよびネットワーク・インフラストラクチャーを提供します。

8.5 法令遵守に関する無保証

お客様は、お客様による「コンテンツ」の使用、および「クラウド・サービス」を使用することによって取得した結果に対し責任を負います。「クラウド・サービス」は、お客様がお客様の遵守義務を促進することを目的に使用できるツールですが、この「クラウド・サービス」の使用によって、お客様がお客様に適用される法規、規格または実施基準について遵守・適合することを意味するものではありません。

8.6 Microsoft 製品の高リスク使用の禁止

お客様は、「クラウド・サービス」オフリングの障害が生命の危険、重大な人身傷害もしくは重大な物的損害または環境被害を招く可能性のあるアプリケーションまたは状況 (以下「高リスク使用」といいます。) で、「クラウド・サービス」オフリングで Microsoft 製品を利用しないものとします。「高リスク使用」には、航空機、またはその他の人の大量輸送手段、核施設、化学施設、生命維持装置、体内埋込型医療機器、自動車、または兵器システムが含まれますが、これらに限定されるものではありません。「高リスク使用」には、その不具合が生命の危険、重大な人身傷害もしくは重大な物的損害または環境被害につながることはない構成データ、エンジニアリングもしくは構成ツール、またはその他非管理アプリケーションを保管するための管理を目的とした「クラウド・サービス」の利用は含まれません。

これらの非制御アプリケーションは、制御を実行するアプリケーションと通信することはできますが、制御機能には直接または間接に関与しないものとします。

8.7 禁止事項

お客様は、次のような危険性の高い活動をサポートするものとして、「クラウド・サービス」、または「クラウド・サービス」の一部を単独で、または他の製品と組み合わせて使用してはならず、また他人に当該使用を許可してはなりません。核施設、公共交通システム、航空管制システム、兵器システム、または航空機航行もしくは通信の設計、建築、管理、または保守。あるいはプログラムの障害が生命の危険や重大な人身障害を引き起こす可能性があるその他のあらゆる活動。

8.8 Cookie

お客様は、IBM が「クラウド・サービス」の通常の運用およびサポートの一部として、トラッキングおよびその他の技術により、「クラウド・サービス」の使用に関連してお客様(お客様の従業員および従契約者)から個人情報を収集することがあることを認識し、これに同意するものとします。IBM によるこのような情報収集は、ユーザー・エクスペリエンスの向上またはお客様との対話の調整を目的とし、「クラウド・サービス」の有効性について使用統計および情報を収集するために行うものです。お客様は、IBM、その他の IBM グループ会社およびその従契約者が、営業活動を行う地域において、適用法に従い、IBM、その他の IBM グループ会社およびそれぞれの従契約者の範囲内で、収集した個人情報を以上の目的のために処理することができるよう、お客様が同意を取得すること、または取得済みであることを確認するものとします。IBM は、収集した個人情報へのアクセス、更新、修正または削除について、お客様の従業員および従契約者からの要求に従うものとします。

8.9 コンテンツの破棄

IBM は、「クラウド・サービス」の契約期間の満了時もしくは解約時、またはそれ以前のお客様からの要求に従い、お客様のデータまたはコンテンツを破棄します。

8.10 IBM Planning Analytics におけるベータ機能

「クラウド・サービス」で提供される「ベータ機能」は、「クラウド・サービス」の一部ではありません。「ベータ機能」は、以下に規定されている場合を除き、「IBM クラウド・サービス」と同じ条件が適用されます。「ベータ機能」の一部または全部は、IBM によって、製品もしくはオフリングとして、または製品もしくはオフリングに組み込まれて一般出荷可能になっていない場合があります。お客様は、実稼働環境で使用する目的ではなく、内部評価を行う目的にのみ、「ベータ機能」を使用することができます。お客様は、IBM が「ベータ機能」を廃止するか、または「ベータ機能」へのアクセスを終了するまで「ベータ機能」を使用することができます。IBM は、サポート義務を負わず、現状のまま「ベータ機能」を提供し、権原保証責任、権利の不侵害あるいは不干渉に関する保証責任および商品性、特定目的適合性に関する黙示的保証または条件を含む、明示もしくは黙示のいかなる保証責任も負わないものとします。

お客様は、「ベータ機能」を使用できなくなった場合に起こりうるデータの損失を回避するため、予防措置を講じなければなりません。

お客様は、提供されたすべてのフィードバックおよび提案を IBM が使用できることに同意します。